

# 元湯の起こり

熱海100年

## 古来より愛され続ける湯治場

熱海温泉碑によると、古くからこの地には温泉が湧いていました。村人たちはこの湯の効き目を知らずに、ただ顔を洗い、口をそそぐために利用していただけでした。ところが不思議なことに、眼病の人はその病が治り、歯の痛みは癒え、ためしにこの湯を浴びてみたところ狂犬や蝮の毒は排出し、皮膚の傷が化膿したものや、できものなどに効果があり、これらのことは近隣に知れ渡っていました。

## 元文三年(1738年)

この温泉の効能を惜しんだ二本松藩本宮代官、吉田弥右衛門守舒は、村人たちに浴舎浴槽を整備させ温度を調整する方法を教えて温泉を利用しやすくしたところ、年中湯治客でにぎわい、人々は豊かになりました。

## 享和三年(1803年)

「陸奥の編笠」(越後長岡藩士の探索日記)に当時の熱海の街の様子が書かれています。「家は30軒ほどで、立派な建物の旅籠屋もあれば木賃宿も、湯小屋は町裏にありぬるい湯と沸かした湯がある。湿疥癬の名湯なり」と記述がみられます。

## 文政二年(1819年)

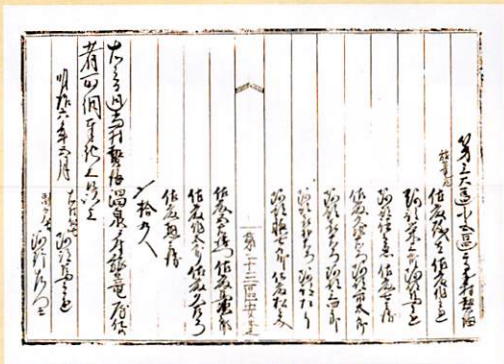
村人たちは、守舒の功績と、熱海温泉の起りを後世に伝えるため石碑を建てました。これが『熱海温泉碑』です。昔は元湯の敷地内に建っていましたが、現在は当社所有地の湯泉神社境内に移設されています。



# 元湯の発展

## 明治六年(1873年)

高玉村「諸用記上控帳」によると、旅籠屋を営む者が19人いたことが分かり、江戸時代から変わらず親しまれていることがうかがえます。



## 大正七年(1918年)

地元住民19人が出資し合い『熱海温泉合資会社』が創立される。ここより磐梯熱海温泉「元湯」の新しい歴史が始まりました。

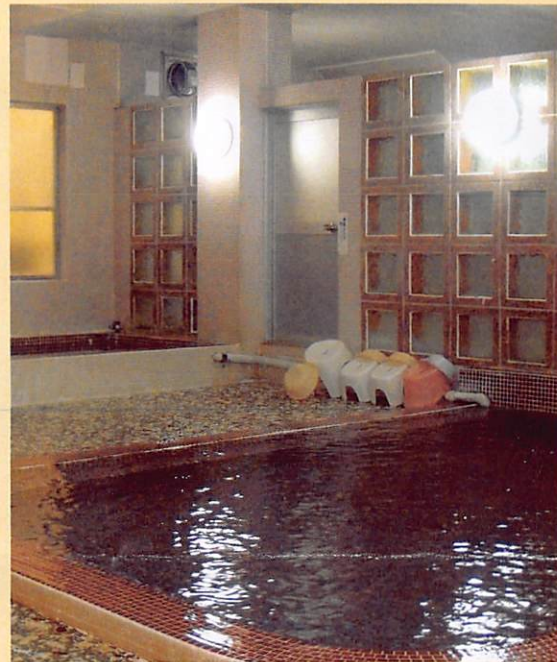


# 愛され続ける元湯

熱海100年

## 平成三十年(2018年)

創立100年にあたる節目を迎えた。現在でも皮膚病の名湯として知られ、町内はもちろんの事、各地からファンが足しげく通う常連のお客様でにぎわっています。



女湯

## 効能

### 当温泉固有の適応症

- ・きりぎり
- ・やけど

### 一般的適応症

- ・神経痛
- ・関節痛
- ・疲労回復
- ・冷え性 など



※福島県の決定による

